

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和三年度十一月 入賞句一覧 投句数 六百二十二句

特選



度会 さち子 選

寺院で菊花展が催されたのか。百畳もある本堂のまえに、ずらりと並んだその菊の大輪の鉢は、きつと信者たちが精魂傾けて咲かせた仏への供えでもあつたのだろう。本堂中に満ちている菊の香り。作者は、この菊花展を阿弥陀と一緒で愛でたという。きつと仏も目を細めて喜んだことだろう。「阿弥陀」とは、上手く詠んだ。

百畳に阿弥陀と愛でる菊花展

大垣市 早苦 千恵子

書くことは生きてゐること文化の日

奈良県奈良市 やまとなでしこ

文化勲章の受賞者でもある瀬戸内寂聴さんが亡くなった。九十九歳。生涯に書いた原稿は二百万枚以上。彼女にとつて、書くことはまさしく生きてゐることであつたといえる。四年前に書かれた『いのち』では、その最後を「七十年小説一筋に生き通したわがいのちを、今更ながらつくづくくいとおいしいと思う。あの世から生まれ変わつても、また私は小説家でありたい、それも女の」と結ぶ。

名画座の吐き出す影や月天心

神奈川県川崎市 立野 音思

どんな映画であつたのだろう。見終わつた人が映画館からつぎつぎと吐き出される。その人影には、興奮、感動などさまざまな想いも影となつて揺らいでいるようだ。レイトシヨウであつたのか、さめやらぬ感動のままに見上げた空には、月が天心にまでのぼつていたという。映画のラストシーンにしたいよう。

秀逸

呼びかけてみたき雲ありななかまど

愛知県名古屋市 舘野 茂子

薄野を抜けて現に戻りけり

東京都新宿区 花澤 ちいこ

稲屑火の匂ふ野面や美濃の空

大垣市 佐竹 余史美

袱紗捌きし爪紅も萩の色

本巢市 小泉 裕子

改札のなごりを抜けて後の月

大垣市 小林 研

気負いみな野面に捨てし翁の忌

埼玉県鴻巣市 大澤 良州

大玻璃のビルはキャンパス秋の雲

大垣市 高津 喜久子

十字架の真上をよぎる冬銀河

愛知県尾張旭市 小野 薫

石仏と語らふ如く曼殊沙華

瑞穂市 谷 陸海

芒原波となりたる風の影

神奈川県横浜市 龍野 ひろし

入選

一般の部

新米の届く最後と言ふメモと

東京都世田谷区

関戸 信治

機関士は敬礼返し夕刈田

不破郡垂井町

小坂 久美子

水澄めり羽撃く鳥も鳴く鳥も

大垣市

坪井 克枝

返り花捨つることなき夢ありて

養老郡養老町

田中 紫香

揺れかはずコスモスの影合戦地

大垣市

三輪 千芽

村人のごとき案山子や茜空

大垣市

遠藤 加容子

古地図には花街とあり赤まんま

大垣市

松岡 千代

錆び鮎をおさへて藻の香漆箸

本巢市

小泉 裕子

振袖の引きずり歩く千歳飴

大垣市

伊藤 鈴子

占ひの運勢見入る神の留守

大垣市

新町 恵子

冬耕や父のくせ有る古き鋤

大垣市

松岡 みつ

ぎこちなく石段上る千歳飴

大垣市

高木 歌佐

スマホから届く子のうた敬老日

揖斐郡揖斐川町

栗野 みねお

雨音を聴くや湯舟の秋深む

愛知県名古屋市

岩田 遊泉

読み返す漱石新た秋ともし

愛知県豊田市

城山 悠水

蓑虫は足るを知りたり蓑の中

大阪府東大阪市

森 佳月

鬼の子の蓑より覗く浮世かな

岐阜市

辻 雅宏

手のひらに渾身の突きバツタ逃ぐ

大垣市

スミノ さくら

秋天を下り始めし観覧車

神奈川県横浜市

龍野 ひろし

神留守やうすきまぶたの地蔵尊

大垣市

平野 きぬよ

選者吟

棚田みな蹄のかたち鳥渡る

さち子

